

コミュニティデザイン学プログラム プログラム専門科目

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (基盤科目)		政策形成と協働 (1単位) Policy Formation and Cooperative Activities	地域における政策の立案, 決定, 実施, 評価といった一連のさまざまな政策形成 (政策のライフサイクル) において, 関連の諸アクターが織りなす協働のネットワーク形成に注目する。講義では政策研究をめぐる従来の理論研究を提示した上で, 諸アクター間関係 (組織間関係) に注目することの研究上の有用性について説明する。そして, たとえば地方大学を含む協働による政策形成の諸事例を紹介する。受講生には各自の今後の修士論文ないしは研究成果報告の作成において, 関連の制度, 法律, 組織間関係など政策的諸要素を論文・報告の一部 (節レベル) として盛り込ませるべく指導を行う。
		コミュニティ政策論 (1単位) Community Policy	コミュニティ政策を, 地域的まとまりにおける, コミュニティの持続可能性を目指した仕組づくりと捉える。そしてその仕組づくりは, もはや行政的な解決や, 市場による解決は難しい。こうありたいと願う住民 (当事者) を中心として, 地域の中のさまざまな主体が結びつき協働によって解決していくことが基礎となる。こうした基本的な考え方をもちつつ, これまでのコミュニティ政策の歴史や制度を学び, 現代的な課題とコミュニティ政策の関連について把握する。中でも 2010 年以降から増えつつある, 地方都市や中山間地域における新たな地域運営組織に着目し, その組織生成, サービス資源開発・経営について, 実践事例と最新の研究から学び, 受講者なりの問題発見, 解決の道筋を提示し, これからの地域ガバナンスのあり方を考察する。
		自然共生デザイン論 (1単位) Regional design in harmony with Nature	自然と共生した持続可能な地域デザイン手法について, 地域生態学・ランドスケープ学を応用した実践的な方法を始め, 地域課題の解決や地域の再生・活性化につなげるための諸方策を論じる。具体的には, 生物多様性地域戦略の策定, 野生鳥獣と人間の軋轢を解消するための鳥獣管理, 里山の活用による二次的自然の保全, ビオトープや自然再生事業による生態系の保全等の諸課題を扱う。
		福祉経営論 (1単位) Welfare Management	福祉サービスを提供する非営利組織の運営管理に関する理論と実際について学ぶことを目的とする。具体的には, 事例研究やフィールドワークを通して, 社会福祉法人や NPO 法人などの地域福祉活動やサービス提供の現状および課題を分析し, 地域を基盤とした法人経営のあり方や実践方法について議論するなど, 地域福祉やソーシャルワークの視点から福祉経営を学ぶ。また, 福祉経営に必要とされるデザインをどのように記述するかについても学修する。

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (社会システムデザイン科目)		政策分析とガバナンス (1単位) Policy Analysis and Governance	公共政策はどのように形成され、なぜその政策が選択されるのだろうか、本講義では、政策選択の要因や既存の政策の課題について、ガバナンスの視点や制度論の視点を示したうえで、各事例について議論を通じて考察することを目的とする。安全保障、環境、福祉の多様な政策に対して、そのプロセスに接近する多様なアプローチがある。また、政策分析には、内容の分析や決定過程の分析があるが、本講義は後者に軸足を置く。政府と国民の関係、国家と市場の関係、国家へ国際社会からの影響などに関する研究、様々なガバナンス論や新制度論、民主主義の理論に基づいて、政府の役割や国民・住民の役割の変化から、ガバナンスのあり方とそれによる公共政策のあり方を検討する。国民のニーズや国際情勢の変化により一層対応した形で公共政策が選択される民主的方法について検討する。
		まちをつくる経済評価の技法 (1単位) Economic Evaluation Method	公共プロジェクトの経済評価の手法について学習する。それに関連するデータ解析のスキルを学ぶ。
		経済政策論 (1単位) Economic Policy	政府の活動に関わる公共経済学や財政政策や金融政策といったマクロ経済政策に関わる基礎的な概念を確認する。そのあと、国民経済、地域経済などに関わるトピックスについて現実の具体的な経済事象を取り上げ、教師からの解説、受講者による発表そして全員での討論により、経済学的なものの方と考え方を修得する。
		福祉会話分析 (1単位) Conversation Analysis in Welfare	本講義では、会話という一つの社会現象に着目することで社会秩序の解明を目指す、社会学の一つのアプローチである会話分析を用いて、福祉とその隣接領域がどのように考察可能かを学ぶことを目的とする。本講義を通じて、受講生は、順場交代・連鎖組織・修復組織・行為の構成・優先組織などに関する、基本的な概念を習得した上で、高齢者福祉、障害者福祉さらには隣接領域である医療コミュニケーションなどを対象とした会話分析の論文などを読み、その分析の実際と、知見について習得していく。なお適宜、実際の音声を用いて、受講生自らが分析を行う形で学びを深める。
		地域スポーツ行政論 (1単位) Studies in Sports administration	生涯スポーツ社会の実現に向けて、国や地方(都道府県・市町村)が進めるスポーツ行政(政策)の制度・仕組みについて概説する。 具体的には、スポーツ行政の基礎知識、国のスポーツ振興計画等に関する基本的知識(スポーツ基本法等)、地方におけるスポーツ推進・振興計画等について、地方のスポーツ振興計画を事例としたグループ課題、などの授業を計画している。

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (社会システムデザイン科)		地域社会教育論 (1単位) Adult and Community Education	社会教育における基本的な「単位」としては「地域」がある。急速な社会変容のもと、これを取り巻く課題は多様化しており、その解決への道筋を模索するためには地域を構成する一人一人が課題に対して主体的に取り組むことが重要であると考えられる。しかし、そのためには地域の現状について認識し、地域における学習を支援しあうシステムが必要であるといえる。そこで本時では参加型学習のあり方や学校・家庭・地域の連携等、現代の社会教育における課題について考察していく。
		地域住民の意識・行動の調査法 (1単位) Psychological research methods	地域住民の意識・行動についての現状および、何らかの介入による変化や効果を量的に把握・分析することはよくある。その際、社会調査とあわせ、心理調査の方法論についても専門的な知識の運用力をもつことが役に立つであろう。 本授業では、心理調査法の知識を踏まえた上で、地域研究における心理調査の実際について批判的検討を行う。そして、受講生自ら、自身の関心に応じて調査計画を立案する。
		都市と地域の社会学 (1単位) Sociology of Urban and Community Studies	この授業では、都市社会学、地域社会学の研究を読み解くことを通じて、都市・地域コミュニティにおける人々や集団の実践をマクロな都市・地域社会構造のなかに位置づけて理解するための視点を身につけることを目標とする。 都市社会における人々や集団の地域活動実践を理解し、デザインし、展開していくためには、その人々や集団を取り囲む都市社会システムを実証的に把握することが欠かせない。そのため、授業では、日本における都市社会学の研究業績を、そこでなされている調査研究と関連づけながら理解し、その上で郊外ニュータウンの高齢化や災害被災地の復興などの研究事例を通じて都市社会システムを理解するための方法論を習得する。
源 プログラム専門科目 (地域資 マネジメント科目)		生活文化デザイン論 (1単位) Culture and Life design	日本の伝統的な生活文化は、永い歴史のなかに「型」として伝わるものが多い。現代社会においては、グローバル化の進展により画一化された近代的な生活が送られるようになった。また、そのような画一化は近年に始まったともいえるが、この時代に観ておくべきことは、日本の伝統の姿そのものであり、「温故知新」とでもいべき今の創造のあり方である。授業では、「生活文化の設計と提案」という観点から、身近な文化を観る。

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (地域資源マネジメント科目)		地域活動の心理学 (1単位) Lifelong Learning Activities in community and Activity Theory	<p>ヴィゴツキイ、ルリヤ、レオンチェフなどに代表される文化・歴史的心理学派は、活動とは対象的であるとした。人の欲求は対象と出会ってはじめて動機に転化し、人の活動を引き起こす。文化(地域)の中に既に人の振舞い方の在り様が刻印されているのである。つまり、活動を通して人々は、地域の文化を獲得し、創り変えつつ生活する。</p> <p>本講義では、地域で行われている、母子支援活動や図書館での識字・生涯学習活動(読みあいボランティア養成講座)等を題材としながら、地域での人々の活動が、自分の手持ちの力を使って生きる人の生涯発達に如何に影響し、また、人は地域の新たな活動を生み出す必要を感じるのか。地域活動を通して共に生きあう人と人との関係の育ちを心理学的に紐解く。</p>
		デザインと地域 (1単位) Design and Region	<p>地域にとって、モノや場をデザインすることはコミュニティにおける様々な関係性の形成や、地域のポテンシャルを生かすための課題発見課題解決に関わる。</p> <p>本授業では、地域のためのモノや場につながる「こと」を糸口に、何をめざしてどのようにつくっていくのか、実際に地域に向かい合って課題を見つけ、それに応答するデザイン提案をする実践的な演習を行う。</p>
		合奏による参加型デザイン(1単位) Participatory Design by the Ensemble	<p>吹奏楽器(管楽器・打楽器群)構造とその奏法を理解し管打合奏の基本を習得する。</p> <p>また、演奏を通じて社会に対してどのように貢献していくか探求する。</p>
		地域食生活論 (1単位) Dietary Life in the Community	<p>私たちの食生活の営みは、住まう地域の歴史や文化、風土や環境等に影響を受けながら発展し、私たち自身の健康のみならず、地域全体の健康に繋がっている。本授業では、食生活と健康に関わる既存研究や既存資料をもとに食生活に影響を与える要因を探究し、食生活に関わる現代の課題を見出し、どのような施策展開が食生活の課題解決に有効であるか、提案し討議する。</p>
		農業・農村の組織マネジメント(1単位) Management of Rural Organizations	<p>雇用を抱える農業経営や、複数の人が集まったの農村起業における、組織マネジメントを学修する。特にそこでのリーダーシップ、及びリーダー人材の育成に焦点を当てる。</p> <p>文献を基本として実際の調査経験も取り入れた講義の上で、議論を行って学習を進めていく。</p>
		観光地理学研究 (1単位) Studies in Tourism Geography	<p>日本および特定地域における農村観光の特徴を学習し、今後の農村観光による地域振興の可能性を議論する。</p>

区分	英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム 専門科目		コミュニティデザイン学特別演習 （4単位） Advanced Seminar in Community Design	<p>指導教員とのディスカッションを通じた、修士論文作成のためにコミュニティデザイン学分野（含む、農業・農村経済学、地域人間発達支援学）における、分析手法の確立と、適切な資料・データ収集方針の確定を目的とする演習科目。</p> <p>研究計画の作成とその実施、修正必要箇所の確認と研究方針の更新を繰り返し、1年次後期の間に研究計画を確定させる。</p> <p>研究に必要な分析手法や資料・データの探索方法を会得し、研究計画を立案・実施する能力を養う。この成果を確認するために、2年次の初めに「研究計画発表会」を実施する。</p>
		コミュニティデザイン学特別研究 （6単位） Advanced Research for thesis in Community Design	<p>「コミュニティデザイン学特別研究」は、修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。コミュニティデザイン学プログラムを専攻する学生の研究テーマは、経済学、政治学、心理学、食生活学ほか広範囲に渡るため、授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標に向けた種々の内容を、研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。またこの過程で、コミュニティデザイン学分野（含む、農業・農村経済学分野、地域人間発達支援学分野）における方法論の検討も行う。成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。2年次前期終了時には、プログラム担当教員の参加のもと、修士論文研究の達成状況の報告を行う。</p>

区分	英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目		コミュニティデザイン学実践プロジェクト（6単位） Non-thesis Research Project in Community Design	<p>本科目は、修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し、地域の課題解決と結びつく実践的活動、あるいは実践知の解明を、コースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。コースワークを希望する学生は、入学時点で、主指導の教員が提示する特定課題に沿って、自らの2年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。プロジェクト計画の作成とその実施、修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し、1年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し、2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う。プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて、成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。</p> <p>また、学生は、プロジェクトを通じて遂行された地域の課題解決と結びつく実践的活動、あるいは実践知の解明の成果を、付随する作品等を含め課題研究報告書としてまとめ上げる。具体的には、当該実践的活動あるいは、学的解明を先行する研究成果や活動報告の中に位置づけた上で、その対象・方法・プロセスなどを説明した上で、分析・考察・報告などを詳述し、結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。</p>